

下水道会計充当表（令和3年度 消費税抜）

※維持管理に関する収支

単位：円

区分	科目	主な内容		合計	公共	特環	農排	小規模
支出	管渠費	管路の維持費用	①	43,059,046	9,957,242	22,130,919	10,970,885	0
	処理場費	処理場の維持費用	②	240,854,859	0	128,456,175	110,090,796	2,307,888
	総係費	事務費用と流域負担金	③	148,517,531	82,592,937	51,548,993	14,375,601	0
	資産減耗費	固定資産除却費	④	30,160,867	19,458	28,715,393	1,426,016	0
	その他営業費用		⑤	1,313,178	0	912,050	401,128	0
	雑支出	消費税差損	⑥	6,445,860	6,175,701	108,962	161,197	0
			⑦	470,351,341	98,745,338	231,872,492	137,425,623	2,307,888
財源	下水道使用料		⑧	389,196,934	95,217,333	198,385,606	95,381,795	212,200
	その他営業収益	加入分担金	⑨	6,768,002	2,862,300	2,253,900	1,651,802	0
	雑収益		⑩	915,757	545,705	192,812	177,240	0
	繰入金（基準内）	一般会計からの繰入金	⑪	720,000	120,000	360,000	240,000	0
	繰入金（基準外）	一般会計からの繰入金	⑫	72,750,648	0	30,680,174	39,974,786	2,095,688
			⑬	470,351,341	98,745,338	231,872,492	137,425,623	2,307,888
財源不足額（⑦－⑬）			⑭	0	0	0	0	0

収益的支出のうち、資本費（減価償却費と支払利息）を除いた、⑦維持管理経費は約4億7千万円かかりました。これに対し、使用料収入（⑧＋⑬）は約4億2千万円となっており、その他の収入で補っても足りない部分に対して、⑫基準外の繰入金を7千万円受け入れました。

事業ごとに見ると、公共においては、使用料収入（⑧＋⑬）が⑦維持管理経費を上回っており、残額を資本費に充当させましたが、それ以外の事業では、⑫基準外の繰入金を受け入れなければ⑦維持管理経費を賄うことができない状況にあります。

※資本費に関する収支

単位：円

区分	科目	主要内容		合計	公共	特環	農排	小規模
支出	減価償却費	※ 1	⑮	974,019,016	289,640,003	423,949,385	257,263,232	3,166,396
	支払利息	借入金の利息返済	⑯	230,734,993	64,717,081	100,386,199	65,059,020	572,693
			⑰	1,204,754,009	354,357,084	524,335,584	322,322,252	3,739,089
財源	下水道使用料		⑱	34,034,234	34,034,234	0	0	0
	長期前受金戻入	※ 2	⑲	322,174,641	60,589,464	168,673,921	91,773,279	1,137,977
	繰入金（基準内）	一般会計からの繰入金	⑳	848,545,134	259,733,386	355,661,663	230,548,973	2,601,112
	繰入金（基準外）	一般会計からの繰入金	㉑	0				
			㉒	1,204,754,009	354,357,084	524,335,584	322,322,252	3,739,089
財源不足額（⑰－㉒）			㉓	0	0	0	0	0

公衆衛生の確保や、公共用水域の水質保全の観点から、下水道事業における資本費（⑮減価償却費と⑯支払利息）については公費（繰入金）によって負担しています。

事業ごとにみると、公共では、維持管理費を使用料収入が上回ったため、⑱使用料3,400万円を資本費に充当しました。

※ 1 減価償却費……………資産の経年に伴い減少していく価値を、その目減り分を経費として計上するもの

※ 2 長期前受金戻入…過去に補助金を受けて建設した資産における補助金部分を、減価償却に応じて順次収益化したもの

※資本的収支

単位：円

区分	科目	主要内容		合計	公共	特環	農排	小規模
支出	建設改良費	施設建設費用	㉔	132,778,714	71,629,549	19,023,788	42,055,377	70,000
	償還金（通常分）	借入金の元金返済	㉕	1,292,014,780	359,645,367	561,568,586	368,224,516	2,576,311
	償還金（平準化債）	借入金の元金返済	㉖	432,886,451	122,006,881	177,955,521	132,924,049	0
			㉗	1,857,679,945	553,281,797	758,547,895	543,203,942	2,646,311
財源	建設改良等企業債	建設改良費の借入金	㉘	84,200,000	59,885,000	3,290,000	21,025,000	0
	資本費平準化債	※ 3	㉙	645,300,000	144,600,000	292,900,000	207,800,000	0
	国県補助金	国や県からの補助金	㉚	28,311,500	13,010,000	1,990,000	13,311,500	0
	工事負担金		㉛	1,558,500	0	352,500	1,206,000	0
	繰入金（基準内）	一般会計からの繰入金	㉜	269,664,871	70,133,228	96,062,460	102,510,056	959,127
	繰入金（基準外）	一般会計からの繰入金	㉝	146,639,832	36,583,572	79,962,078	30,435,417	△ 341,235
			㉞	1,175,674,703	324,211,800	474,557,038	376,287,973	617,892
財源不足額（㉗－㉞）			㉟	682,005,242	229,069,997	283,990,857	166,915,969	2,028,419
損益勘定留保資金			㊱	682,005,242	229,069,997	283,990,857	166,915,969	2,028,419
収支再差引（㉟－㊱）			㊲	0	0	0	0	0

㉗資本的支出の18億5千万円に対し、㉞資本的収入は11億7千万円となり、6億8千万円の㉟収入不足が生じました。これは、㊱損益勘定留保資金で補てんしました。

下水道事業では、企業債の償還期間が短く、企業債償還金（㉕＋㉖）が莫大であることから、㉙資本費平準化債によって、その一部を賄っていますが、過年度に借り入れた平準化債の償還も大きくなっていることから、㉛基準外の繰入を実施しており、資金繰りは厳しい状況にあります。

※ 3 資本費平準化債…借入金の元金返済金が、減価償却費を上回る場合に、その上回る部分を借り入れることで資金の不足額を補うもの